

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年11月26日 (2009.11.26)

【公表番号】特表2009-511198(P2009-511198A)

【公表日】平成21年3月19日 (2009.3.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-011

【出願番号】特願2008-535710(P2008-535710)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/58 (2006.01)

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

A 6 1 B 17/14 (2006.01)

A 6 1 B 17/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/58 3 1 0

A 6 1 F 2/44

A 6 1 B 17/14

A 6 1 B 17/16

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月7日 (2009.10.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

椎骨を整復する装置であって、前記装置は、

少なくとも 1 本の細長い部材を備えており、前記細長い部材には第 1 端および第 2 端が設けられており、前記細長い部材の各々の第 1 端は椎体に挿入するのに好適な形状に設定されており、前記装置は、

形状が弧状である固定用ロッドと、

前記細長い部材の各々の前記第 2 端を前記固定用ロッドに調節自在に固着させるよう構成されたクランプとを更に備えており、

前記クランプは、前記固定用ロッドに沿って移動して前記細長い部材を旋回させることで椎骨を整復するような構成になっている、
ことを特徴とする装置。

【請求項 2】

前記細長い部材の前記第 2 端の各々に係合するハンドルを更に備えていることを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記細長い部材の各々は、前記細長い部材の第 1 端から第 2 端まで延びる管腔を有する管状本体部であることを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

前記固定用ロッドは、その長手方向軸線に沿って複数の表面機能部が配置されており、

前記クランプの各々は、前記固定用ロッドの長手方向軸線に沿って第 1 の方向に移動して前記表面機能部に係合することで固定用ロッドの長手方向軸線沿いに第 2 の方向に移動することを阻止することができる第 1 形状を呈することを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

前記クランプの各々はボタンを有しており、更に、前記ボタンがクランプを前記固定用ロッドの前記表面機能部から切離してクランプを前記第 2 の方向に移動させることができる第 2 形状を呈することを特徴とする、請求項 4 に記載の装置。

【請求項 6】

前記装置は、第 1 端、第 2 端、および、前記第 1 端から前記第 2 端までカニユーレの中に通路として機能する管腔を有しているカニユーレを更に備えており、前記第 1 端は骨折した椎体に挿入するのに好適な構成となっていることを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 7】

前記細長い部材は、ステンレス鋼、金属、合金、重合体、複合材、セラミック、または、これらの何らかの複合物からなるグループのうちの少なくとも 1 つを含んでいる材料で作られていることを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。